



上向台小だより 3月号

未来を切り拓く 『自立した学習者へ』

変化する社会と、学校教育の新たな挑戦

郷土資料室での衝撃

3年生の社会科見学。「昔の道具」コーナーで私が目にしたのは、炭火アイロンと並んで展示された「ガラケー」でした。かつて私たちのコミュニケーションの最先端だったツールが、今や「歴史」としてガラスケースの中に眠っています。



かつての「最先端」

休み時間に公衆電話に並び、数字の羅列でメッセージを送ったポケベル。アンテナを伸ばして電波を探したPHS。当時は「これ以上の進化はない」と感じていましたが、技術は私たちの想像を遥かに超えて加速しました。



手のひらに集約された世界

音楽も、地図も、辞書も、プロ仕様のカメラも。かつては別々の物理的な「道具」だったものが、今は形を失い、データとして一台の端末に収まっています。



学校は「時代」に 追いついているか？

社会は激変しました。しかし、教育の根本的な
仕組み——「正解を一齐に教わり、書き写して記
憶する」スタイル——は、レコードの時代から
どれほど変わったのでしょうか？

変わったのでしょうか？

デバイスが進化しても、学び方が古いままであ
れば、そこには大きなギャップが存在します。



「知識の伝達」から「未来を拓く道具」へ

旧来のモデル (Old Model)



- 特定の場所・特定の時間
- 知識を受け取る



新しい現実 (New Reality)



- いつでも・どこでも
- 情報を自ら取りに行き、発信する



現代はデバイス一つで世界中の情報にアクセスし、自ら発信できる時代です。

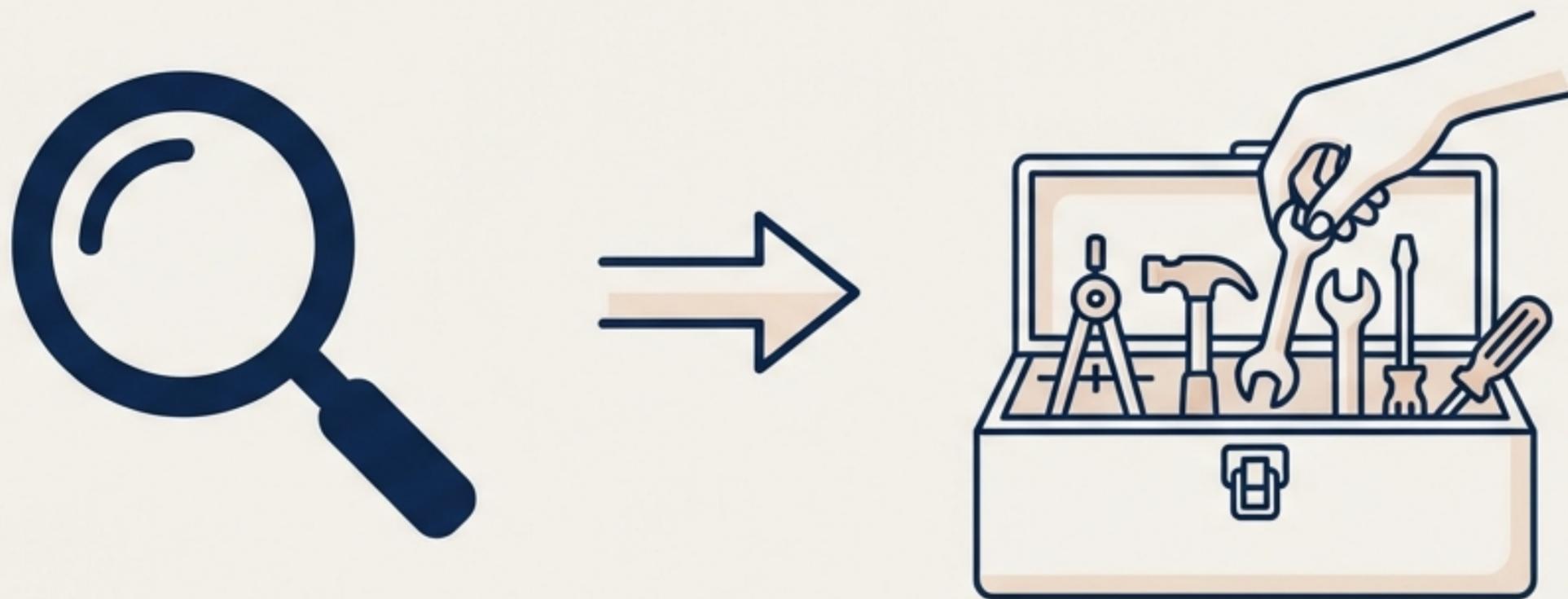
学校が旧来の役割に留まれば、子供たちが社会に出た時の現実に適応できません。

タブレットを「単なる遊び道具」にするか、「未来を切り拓く道具」にするかは、使う側の「自立」にかかっています。

今年度のテーマ： 自立した学習者の育成

私たちは教育モデルを根本から見つめ直します。
知識を詰め込むのではなく、テクノロジーを使いこなし、
生涯学び続けるための「3つの力」を育てます。

力①：問いを立て、道具を選び取る力



検索すれば答えが出る時代。重要なのは「答え」ではなく、「何を問うべきか（課題設定）」です。そして、目的に応じて最適な機能や方法を主体的に選び出す力を養います。

力②：学び方を自らデザインする力

人によって最適な学び方は違います。動画、対話、インターネットなど、自分に合った方法を自ら見つけ出すプロセスこそが、生涯学び続ける力となります。

A. 動画 (Video)



B. 対話 (Dialogue)



C. 読書 (Reading)



D. インターネット
(Internet)



力③：変化を恐れず、試行錯誤を楽しむ力

今の最新技術も、数年後には「昔の道具」になります。特定の操作を覚えること以上に、新しい状況で「まずはやってみよう」と柔軟に立ち向かう、精神的なたくましさを育てます。



教師の役割は「伴走者」へ

学校は「知識を詰め込む場所」から
「学び方を学ぶ場所」へ進化します。
教師は唯一の正解を教える存在から、
子供たちの探究を支え、共に走る
「伴走者」となります。



御家庭へのお願い

お子様が自力で調べ、悩み、失敗するプロセスを尊重してください。すぐに答えを教えるのではなく、大人が共に学び、変化を楽しむ姿を見せることが、子供たちにとって何よりの励みになります。



未来へ

いつか今のタブレットが懐かしい
「昔の道具」になったとき。

「あの時、上小で『自立して学ぶ
力』を身につけたから、今の自分
がある」。子供たちがそう胸を張って
言えるよう、私たちは情熱を持って
て伴走し続けます。





— 人生100年時代を生き抜くために —

保護者の皆様、地域の皆様。

今年度も温かいご理解とご協力をありがとうございました。

次年度も、生涯学び続ける子供たちのために、共に歩んでいきましょう。